

目次 Contents

4 特集 すそのんエール飯プロジェクト

6 トピックス

土砂災害に備える／プロジェクト
TOUKAI（東海・倒壊）-0／裾野
駅西土地区画整理事業／成人健康診
査／市民税・県民税／富士山南東消
防組合職員募集／23人のスポーツ
推進委員

10 インフォメーション



野鳥の魅力を伝え半世紀

日本野鳥の会東富士 副代表
滝 道雄さん（69歳・麦塚）

「野鳥を見続けて53年になりますが、『継続は力なり』という言葉のとおり、続けていることで分かることがたくさんあります」と語る滝さん。1990年、滝さんが市内で撮影した野鳥の写真を採用した市政カレンダーが広報コンクールで県知事賞、全国でも入選一席に輝いたことを契機に、活躍の場が大きく広がりました。

現在は、日本野鳥の会東富士の副代表を務める他、富士山資料館で開催している探鳥会などの講師、行政やNPO団体の依頼を受け、



各地に生息する野鳥の継続調査など、年間100日近くを精力的に活動しています。「裾野は標高差があり、季節や場所によって、四季を通じてさまざまな野鳥が観察できるので、飽きることがありません。中央公園でも年間で60種類以上の野鳥を見ることができます。ポイントは、まず耳で野鳥を感じることです。毎年中央公園で市民探鳥会も開催していますので、興味のある人は一緒に参加してみませんか」と呼びかけます。

近年は野鳥だけでなく、季節ごとに変化する山野草との出会いや、同じ趣味をもつ人たちとの会話も大きな魅力になっています。「自分が楽しむことが一番で、長く続けられる秘けつです。今後は市内で調査も実施したいので、希望する場所があれば教えてほしいです」と抱負を語ってくれました。



susonobito No.15

表紙 Front cover



田植えの時期を迎えました

5月に入り、市内各地で田植えのシーズンとなりました。深良地区の田んぼでは休日を利用し、家族で協力して田植えに励む光景が見られました。孫も田植え機に乗って作業を体験し楽しそうです。秋の収穫が待ち遠しいですね。